

# 4 乳児の心肺蘇生の手順 わが子の急変にも勇気を出して！ 「何もしない」のではなく「何か」を実施することが大切です。

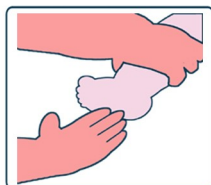
1歳未満の乳児に対しては、体の大きさが違うなどの理由から、さらに適した心肺蘇生のやり方があります。  
乳児に行う心肺蘇生で特に注意するのは以下の点です。

- ① 胸骨圧迫の方法
- ② 人工呼吸を開始するタイミングと方法

※胸骨圧迫を行うことがためられる場合

## 1 反応を確認する

声をかけながら反応があるかないかを確認めます。  
足の裏を叩いて刺激することも有効です。



足の裏を刺激する

## 2 119番通報とAEDの手配

- 反応がなければ、大きな声で助けを求めます。  
「誰か！来てください！」
- 協力者が来たら具体的に依頼します。  
「あなた、119番通報をお願いします」  
「あなた、AEDを持って来てください」

## 3 呼吸の確認

傷病者が「普段どおりの呼吸」をしているか確認します。  
傷病者のそばに座り、10秒以内で胸やお腹の動きを見て、  
普段どおりの呼吸をしているか判断します。

### ポイント 成人との違い

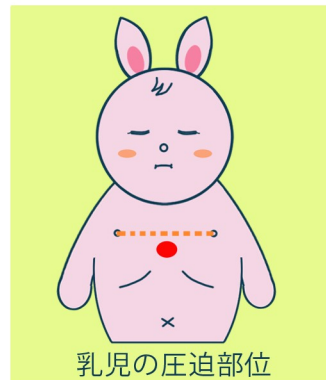
ここまでの流れは、  
成人と一緒にだね



心肺蘇生は、成人と子どもの違いを気にすることなく実施できるように工夫されています。子どもたちの命に危険が迫っているときは、年齢を気にすることなく心肺蘇生を行う事が効果的です。

## 4 胸骨圧迫 きょうこつ

- 圧迫部位は、両乳頭を結ぶ線の少し足側の胸の真ん中です。
- 胸骨圧迫は指2本で行います。



乳児の圧迫部位



乳児への胸骨圧迫

- 1分間に100～120回の速いテンポで30回連続して絶え間なく圧迫します。
- 圧迫の強さ（深さ）は、胸の厚さの約1/3が沈む程度を目安として、強く・速く・絶え間なく圧迫します。

## 5 人工呼吸



乳児への人工呼吸  
(口対口鼻人工呼吸)

準備ができしだい人工呼吸を開始します。  
基本的には、まず胸骨圧迫を開始した後、  
人工呼吸を行いますが、**胸骨圧迫よりも早く人工呼吸を行えるのであれば、人工呼吸から心肺蘇生を行ってもかまいません。**

- 乳児の大きさでは、口対口人工呼吸を実施することが難しい場合があります。この場合は、口対口鼻人工呼吸（口と鼻を同時に覆います）を2回行います。

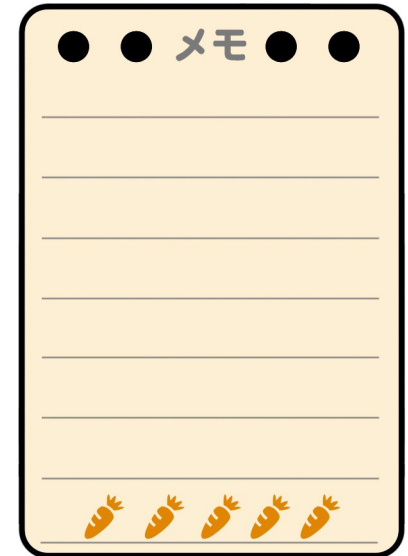
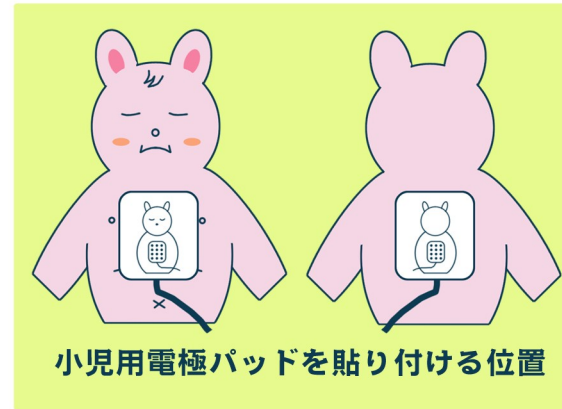
## 6 AED の使用

乳児にも AED を使用できます。

- 小児用電極パッド(小児モード)が備わっている場合は使用します。
- 電極パッドを貼る位置は、パッドに表示されている絵に従います。

### ポイント 小児用電極パッドがない!

小児用電極パッド(小児モード)が備わっていない場合は、**成人用パッド**を使用します。



## 7 心肺蘇生と AED の繰り返し

胸骨圧迫 30 回、人工呼吸 2 回の組み合わせを絶え間なく続けます。AED を使用した場合は 2 分おきに自動解析し、ショック後はただちに胸骨圧迫から再開し心肺蘇生を継続します。

## 5 乳児の気道異物の除去

苦しそうで顔色が悪く、泣き声も出ない時は気道異物を疑います。

乳児に対しては、腹部突き上げ法を行ってはいけません!



気道異物による窒息と判断した場合は、ただちに 119 番通報を依頼し、異物除去を行ってください。反応がある場合は、背部叩打法と胸部突き上げ法を実施します。乳児では成人と異なり腹部突き上げ法は行いません。

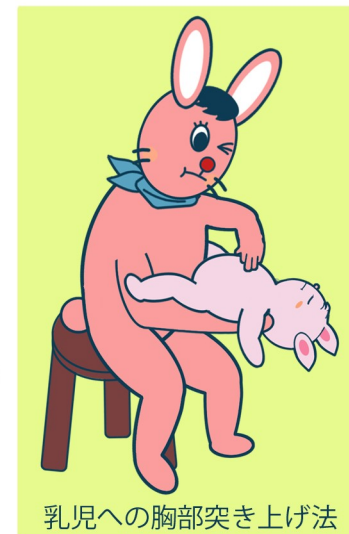
### ① 背部叩打法

片方の手で乳児のあごをしっかり持ち、その腕に頭が下がるようにしてうつ伏せにします。もう片方の手のひら(付け根)で背中の中を異物が取れるか、反応がなくなるまで強くたたきます。



### ② 胸部突き上げ法

片方の腕に乳児の背中をのせ、手のひらで後頭部をしっかり持ち頭が下がるように仰向けにします。もう片方の手の指 2 本で胸の真ん中を力強く数回連続して圧迫します(心肺蘇生の胸骨圧迫と同じ要領です)



### ポイント 反応がなくなった!

- 反応がなくなった場合は、ただちに 119 番通報と AED の手配を行い、床や畳など硬い所に下ろし、乳児に対する心肺蘇生の手順を開始します。
- 心肺蘇生を行っている途中で異物が見えた場合は、それを取り除きます。見えない場合はやみくもに口の中に指を入れて探らない、探すために胸骨圧迫を長く中断しないでください。